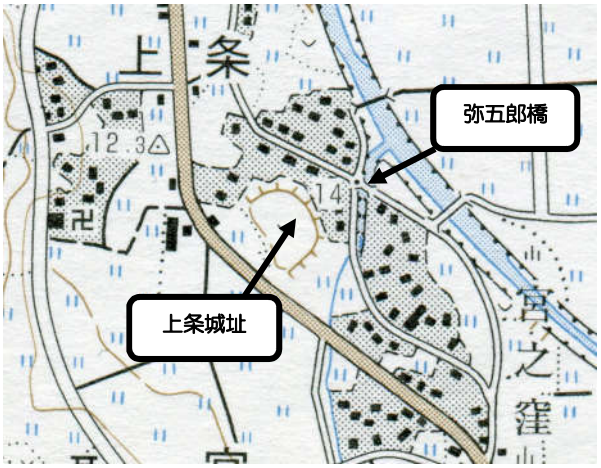
「柏崎の橋」　５５　弥五郎橋（上条）

上条は鵜川中流域に位置し、その地名は鵜川荘域の上方にあるところに由来する。戦国時代には、関東管領や越後国守護と縁の深い上条上杉氏の居城「上条城」が構えられた。弥五郎橋は標高１５ｍの上条城の東側を掘のように流れる浦の川（「うらんかわ」または「御殿川」ともいう）に架かる橋である。



国土地理院発行　２万５千分の１地形図
『越後野田』（平成１１年発行）を掲載

弥五郎橋の名は上条弥五郎を偲んで、後世に伝えようと付けられたという。上条弥五郎については上条城主五代とも六代とも諸説あるが、後に上杉景勝を支えた名高い戦国武将である。上条には上条弥五郎が城主であった頃を舞台とした「蜘蛛切り橋」伝説が次のように伝わっている。「弥五郎は争乱の続く時代にも関わらず、領地をよく治めていた。しかし、化け物が人を喰うというので、このままでは領民が安心して暮らせず、自分の名誉にもかかわると思い、家臣の中でも勇猛のきこえ高い、大橋清兵衛という侍にこれを見届け退治することを命じた。ようやく切り倒した化け物は蜘蛛であった。」この伝説からは、弥五郎が領民を思うよき城主であったことがうかがえる。

弥五郎橋の付近は、鵜川と浦の川が合流する場所であり、古くから鵜川より土地が低かった。また、浦の川は現在の半分の川幅しかなく、土手も低く蛇行しており、大雨が降るとしばしば洪水を起こした。そのため、浦の川の土手を鵜川と同じくらいの高さまで土盛りし、洪水対策を施した。弥五郎橋もこれと同じ時期に架け替えられ、昭和４９年３月に竣工した。

橋が架け替えられる以前、弥五郎橋近くの土手には集落の人々が集まる洗濯場があった。当時を知る地元の方によれば、母親が洗い物をしながら世間話をする傍らで、子どもたちは遊びまわった。橋の付近は平坦で広く、子どもたちの格好の遊び場であった。橋はコンクリート製で欄干があり、銘板には金色で「や古らう者し」と名が刻まれ、ハイカラであったという。

かつて弥五郎橋の脇に上条―宮之窪集落をぬける旧道が通り、バス路線となっていた。また橋のそばには「弥五郎橋前」という名のバスの停留所が設置されていた。現在バス路線は、国道３５３号に変わり、「弥五郎橋前」の名はもうない。しかし、橋の名は上条郷の歴史とともに、後世に守り伝えられることであろう。

弥五郎橋　橋の向こうに上条城址を望む

●参考にした本
『戦国の武将　上條弥五郎』（２８９ シヨ）久我勇 著
『上条上杉氏と上条城』（２２４ ムラ）村山不二雄・伊藤啓雄 著
『柏崎市伝説集』（３８８ Ｋキヨ）柏崎市教育委員会 編
『刈羽郡旧蹟志』（２２４ ヤマ）山田八十八郎 著
『上条　学び舎の跡』（３７６ Ｋシヨ）
上条小学校閉校記念事業実行委員会 編